

1. 幼稚園の目標	2. 本年度の重点目標
カトリックの愛と祈りの精神に基づき 神様を愛し人を愛することができる 子どもに育てる	・心を育てる ・心育による情操教育 ・縦割り保育 ・小学校連携の充実のカリキュラム ・挨拶・礼儀・よい生活習慣の形成 ・モンテッソーリ教育 ・地域との交流

3. 目標・評価						外部関係者から
① ところを育てる						
領域	評価項目	評価の観点	具体的な方策	達成度	成果と課題	意見や提言など
教育活動	生きる力の育ち	自分で考えて判断できているか	正しい目標を定めそれに向かって努力する心の強さを担う	3.6	自分で選んだことを最後までやり抜く努力することを見守り、達成できたときはしっかりと認めていくようにした。大げさに褒めることはせず、できたねと努力の過程を認め、達成感を子どもと共に味わえるようにした。	モンテッソーリ教育や縦割り保育により子どもたちは日々、達成する喜び、努力する大切さを知るなどの貴重な経験を通じて大きく成長していると思います。これから神様の似姿となれるよう、正しい言葉づかい、正しい行い、を意識しながら寛容な心の育成を図ってみたいと思います。
	思いやりの心の育ち	相互のつながりをふやす	縦割り保育で家庭的な雰囲気をつくる	4.1	クラスの中で異年齢で援助したり、助け合う場面がたくさん見られ、子どもたちの思いやり、優しさに感動されることがあり、縦割りの良さを実感した。	

② 宗教による情操教育						
領域	評価項目	評価の観点	具体的な方策	達成度	成果と課題	意見や提言など
教育活動	神様に愛されていることを知る	すべてのものに感謝する心を学ぶ	自己肯定感と善悪の判断をつけ 正しいことを実行できる 良心を形成する	3.8	いつも神様はあなたたちの側で見守って下さっているということを折にふれて話した。お祈りの時間を大切に、静かに祈り、神様に感謝する心を持つことができるよう心掛けた。職員も子どもたちに伝えるためもう少し宗教教育の園内研を増やすことが課題である。	全園児が神様の存在を大切に思い、その思いの延長として周囲の人々に対しても思いやりをもって丁寧に接していると思われている。教会の関係者の方々や園児・保護者との交流が行事の時だけでなく、日々の園生活の中でもより多くあれば、子ども達の成長の糧やヒントを与えて頂けるのではと期待しております。

③ 地域との交流						
領域	評価項目	評価の観点	具体的な方策	達成度	成果と課題	意見や提言など
教育活動	地域とのつながりを深める	自分の笑顔が他の人に役にたつことの喜びを体験する	・地域の園外清掃 ・老人ホーム慰問 ・虹の松原清掃	3.4	園の外に出て活動に参加し、ルールを守って行う地域の清掃にも意欲的に取り組んでいく子どもたちの様子が見られた。活動に際しての過ごし方の礼儀も意識できるよう分かりやすく子どもたちに伝えていきたい。また地域との繋がり、人の役に立つ喜びを感じる様子が伺えた。課題として保護者自身が手本となっておじぎの仕方をきちんと教えていきたい。	様々な行事や日々の活動を通じて地域の方々や接点を持つよう努力されていると思います。地域の方々からの励ましのお言葉をいただくことも多く、先生方の地域への配慮の賜物と思います。これからも積極的に地域との関わりを持って頂ければと思います。

④ 小学校連携						
領域	評価項目	評価の観点	具体的な方策	達成度	成果と課題	意見や提言など
教育活動	小学校に興味をもち親しみを持つ	遊びの体験を学びの自立へ持っていけるよう促す	生活習慣の徹底、精神的自立、ができるよう一人一人にあわせた記録をとり指導する	3.3	生活習慣がきちんと身につけているのか日常の中で1人1人に目を向け、身につけていないところを中心に指導していった。集団の中できちんと姿勢を正して座り、目を先生の方に向けて話しかけるように徹底して指導していったが、じっと座れない子が多いことが事実。今後も意識して指導していきたい。また幼保小研修の中で学んだことで、通常保育で活かそうなことは一年間を通して取り入れていく。就学に向けて生活習慣の見直し	唐津カトリック幼稚園の特色である保護者との綿密なコミュニケーションを活かしながら、小学校で子どもたちがより心豊かに成長できるように土台を築いている。また、学校生活でのマナーやルールも、先生方から折に触れ子どもたちによく説明がなされており、保護者の不安が解消されるよう配慮がなされている。

4 本年度のまとめ
子どもたち1人1人と深く関わり、子どもたちの成長の助けとなる援助はどういうことか考えながら関わった。必要な援助、不必要な援助の区別をつけ甘やかすのではなく、自立の道への一歩となる援助をしようと努力した。行事に向けては1つ1つスムーズに行うことができているように感じているので、ゆとりをもった気持ちで接していきたい。次年度は生きる力の育ち、神様に愛されていることを知るという項目を見直しながら子どもたちと共に過ごしていきたい。未満児は保護者から離れ、園で安心して生活できるよう心を配った。子どもたちが言葉で表現できないことを普段の様子から読み取れるよう日頃からよく子どもたちを観察した。観察したことを活動につなげることがまだまだだと感じている。子ども1人1人の個性を大切にしながらも集団としての社会性を身につけていくことをもっと学んでいきたいと思う。また研修会等、たくさん参加させて頂き学びが多かったが、この学びを他の先生方に伝えることが十分できなかったと反省しているので次年度は努力目標としていきたい。

達成度
A(5) ほぼできた
B(4) 概ねできた
C(3) 少しできた
D(2) 不十分だった

外部関係者より総評
先生方の並々ならぬ努力により、重点目標を確実に達成されており、子どもにも保護者にも地域にも信頼され愛される幼稚園であると思います。先生方の高い志に基づく日々の努力の成果が、すぐに子どもたちの行動、そして笑顔となって現れる過程をいつも拝見し、子どもたちの可能性を信じ、愛情深く教育されていると感じられます。縦割りや横割りそれぞれの特性を活かしながら教育されていることが、子どもたちの社会性を養う大きな原動力となっていると考えられます。これからも、子どもたちひとりひとりの素晴らしい才能を開花させる教育を続けて頂きたいと切に願っております。